

環境負荷の少ないバラ園普及に向けて

研究代表者:菊地牧恵

共同研究者:小林幹夫、宮内泰之、澤田みどり、来島泰史、野村和子

Promoting Use of Eco-friendly Rose Gardens

KIKUCHI Makie, KOBAYASHI Mikio, MIYAUCHI Yasuyuki,
SAWADA Midori, KIJIMA Yasushi, NOMURA Kazuko

Abstract

This report outlines an approach to using environmentally friendly rose gardens. Keisen University and its alumni association have formed a steering committee to develop organic rose gardens. As part of this project, we have created a guidebook, which is used to plan guided tours. We also visited the Sakura Kusabue Hill Rose Garden to check on progress and try to improve the quality of the garden. Our findings are discussed below.

はじめに

学園創立80周年記念事業「花と平和のミュージアム」計画の一環として、同窓会と学園の協働により2012年度から南野キャンパスにバラ園づくりが始められた。本事業では、同窓生、公開講座「バラを学ぶ」(講師 野村和子)受講生などの諸先輩方とともに、学生がバラ園づくりを通して園芸についての学びを深めることをめざしている。また、野生種のバラから自然の営みに着目し、自然との共存、持続可能な生き方を探る場を提供するものである。

これまで、「環境負荷の少ないバラ園設置のための基礎的研究」(2013年度～2015年度)として、①環境負荷の少ないバラ園設置のためのマルチ材料の検討、②学生の日常の管理・観察の方法改善、③バラ園設置報告パネル作成、④講演会の開催(2015年5月21日。講師野村和子)を行った。本報告では、次の段階としてバラの有機栽培の

普及を目的として、以下の検討を行った。

- ① セルフラーニングが可能なガイドブックの作成
- ② 学生を主な対象としたバラに関する学習会の開催
- ③ 佐倉草ぶえの丘バラ園の視察

ここで、「恵泉・南野バラ園」の名称を、「*Keisen Wild Rose Garden* ～野ばらの庭～」へ変更したことを報告する。これまで、「恵泉・南野バラ園」と呼ぶことで、南野キャンパスでバラ園をつくっていることを学内向けに伝えてきた。しかし、それでは一般的なモダンローズのバラ園と誤解されやすい。広く一般の方々に野生種を集めたバラ園であることを明確に示し、華やかなモダンローズのバラ園と違い、一重の小さな花や実も楽しみながら、バラの歴史に思いを馳せることのできる野ばらの庭であることを強調したのである。名称変更は2015年9月、バラ園運営委員会で決定された。

1. *Keisen Wild Rose Garden* ～オーガニックの野ばらの庭～ガイドブック作成

(1) 概要

環境負荷の少ないバラ園を普及するために、*Keisen Wild Rose Garden*(以下「本バラ園」)がなぜオーガニックで野生種を集めたのかという点に加え、自生地ごとの観察のポイントなどがわかるセルフラーニングの可能なガイドブックを、「社会園芸実践Ⅰ」(担当教員 宮内泰之)の一環として、履修生(社会園芸学科2年戸川歩美、猫田佳寿)が作成した(2017年3月20日発行)。このガイドブック作成には「バラの野生種について」の寄稿、インタビューなどで、植栽設計者である野村和子の協力を得た。

主な内容は、本バラ園が人の手が加わったモダンローズではなく野生種を集めたものであること、環境負荷を抑えた、農薬や化学肥料を使わないオーガニックのバラ園であること、つくられた経緯、コンセプト、野生種の解説、花や実の見頃時期についてである。荒地からバラ園をつくり上げていく過程の作業風景、野生種についての解説ページに自生地ごとの花と実など多くの写真を掲載したことが、このガイドブックのもうひとつの特徴となっている。

(2) 学名表記についての検討

ガイドブックに写真を掲載したバラに学名を明記するにあたり、その学名について再検討を行った。当初、野村は学名表記を『*Modern Roses12*』(Marilyn A. Young, 2007)を基準としていた。植物の学名表記法として、変種や品種については*Rosa davurica* var. *alpestris*のように、var. や f. を表記することが定められている。しかし、『*Modern*

Roses12』では、それらの表記は省略されていた。また、近年のDNA解析などの進展により、分類の見解が変化しており、研究者によって異なっているものもみられた。

以上のことから、本バラ園のバラの学名については、『Modern Roses12』に原則として従う。また、学生の教材としての利活用も大きな役割であることから、より正確な表記を行う必要があり、subsp., var., f.は省略せずに表記することとした。

(3) ガイドブックの活用について

今後は、このガイドブックを学内外で配布し、多くの方に本バラ園へ足を運んでもらえるよう活用する。また、ガイドブックを使って学生によるミニガイドなどを開催し、オーガニックのバラ栽培の可能性を地域へ発信する機会としていく。見どころや観察のポイントがわかるこのガイドブックを手にも本バラ園を見学することで、学びを深めてもらえることを願っている。

全16ページ掲載(付録)

2. Keisen Wild Rose Garden ミニガイドツアーの開催


(1) 概要

本バラ園は2012年9月に開墾を始めて以来、2013年6月から北アメリカ、ヨーロッパ、中国の順に各地域の野生種の苗を植えてきた。2015年5月21日にはオープニング記念講演を行った。その時点では日本の野生種の植え付けには至っていなかったが、植えた苗の多くが根付き花を咲かせてきたのを機に、多くの方々に見に来ていただくために開催した。

その後も秋から冬にかけて順次作業を進め、未完成とはいえ、自生地ごとにバラの苗を一通り植え付け、パーゴラやベンチなどの設置も進んだ。2016年度はバラに関する学習会「ミニガイドツアー」を5月20日に2回開催した(資料1)(写真1, 2, 3)。学生が参加しやすいよう30分の短時間とし、1回目は昼休みに設定した。参加者には、植栽図(資料2)およびバラ園のポストカード、アンケート用紙を配布した。園芸文化研究所所長挨拶の後、野村によるガイドを行い、最後に記念撮影、室内に設置されたKeisen Wild Rose Gardenのパネル展示や恵泉オーガニックカフェ

恵泉女学園 花と平和のミュージアム

Keisen Wild Rose Garden ミニガイドツアー

【講師】 野村和子先生 <small>(恵泉女学園高等学校、短期大学園芸科卒業)</small>	
【参加料】 無料	
【場所】 恵泉女学園大学 南野キャンパス	
【日時】 2016年5月20日(金)	オーガニックカフェは16:15までオープンしています。 (Lunchオーダーは13:30まで)
1回目 12:45~13:15	
2回目 15:15~15:45	

～講師和子先生プロフィール～

京都(宇治)農芸研究所にて、バラの作出家として世界的に著名な森村本三氏の助手を務つた。養育された日本のバラの文化の歴史を学ぶ。園芸文化研究所の設立に協力。現在理事長として(恵泉女学園大学)「2006年(園芸)」の管理運営に当たっている。平成20年度文化庁文化芸術推進事業。恵泉女学園大学(園芸)研究員。著書「オールドローズ」(小学館)他、多数

Keisen Wild Rose Garden

は、未来のバラ園をテーマに、野生種のバラを北半球の2つの地域(中国、アメリカ、ヨーロッパ、日本)に分けて植栽しています。生物多様性の環境を大切に、無農薬で育てています。

お問い合わせ：園芸文化研究所/keisen.ac.jp

主催：恵泉女学園 花と平和のミュージアム(園芸)学部長室長
共催：恵泉女学園図書館、恵泉女学園大学園芸文化研究所

資料1 ミニガイドツアーチラシ

の案内をしてアンケートを回収した。

日 時:2016年5月20日(金)

① 12:45～13:15、

② 15:15～15:45 (各30分)

講 師:野村和子

参加者数:1回目約40名(学生約10名)、
2回目約20名、合計60名

主 催:恵泉女学園花と平和のミュージ
アム(バラ園運営委員会)

共 催:恵泉女学園同窓会、恵泉女学園
大学園芸文化研究所



写真1 ガイドツアーの様子

(2)ガイドの内容

バラ園では、花だけではなく葉や樹形も観察でき、香りも嗅ぐことができる。野生種が現在の園芸種のバラの原点となっているその歴史について、実物を見ながら野村の解説を聞くことができた。以下にガイドの内容を、ほぼそのまま紹介する。



写真2 ガイドツアー 野村和子

・Keisen Wild Rose Garden ～野ばらの庭～について

ここは、世界の野生種をヨーロッパ、北アメリカ、中国、日本と自生地別に植栽したバラ園です。中央のレンガとピラミッド(注1)はそのまま活かしてあります。

作業をはじめてみると、この場所はひどかった。ここは全てチガヤでした。おまけに石ころだらけ。学生さん、同窓生の皆さん、公開講座の受講生、そういう方たちを巻き込んでチガヤ取り、石ころや鉄筋くずなどの廃材拾い。それに何ヶ月もかかりました。やっと4年でここまで来ました。それでもまだまだ最終的な日本の野生種まで出来上がっていません。全部できたらレンガの縁に、同窓生の方が寄付してくださったタイムを植える予



写真3 ガイドツアー 集合写真

定になっています。本当に皆さんのお陰でやっとここまでこぎ着けました。

・栽培の歴史

このバラ園は他と比べると寂しいと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、それは素朴な野生種だからです。私たちがあちこちのバラ園で見ると大きくて花弁が厚いバラの原点は、全てこれらの野生種です。この野生種を何千年改良に改良を重ねて、いまのバラに至っています。バラの野生種は北半球だけにしかありません。その北半球にある野生種の中からいくつかのものがピックアップされて人間が栽培を始めた。そしてそれがまた自然に交配され、それを人間が選び栽培して次第に美しくなっていくわけです。

ここは野生種を集めたバラ園なので、ほとんどが花弁5枚の一重咲きです。この一重のバラからなぜ、大輪で花弁の多いバラができてきたか。それは、バラには雄しべがたくさんあり、雄しべは花弁に変化しやすい性質を持っているからです。従って5枚が6枚になり、10枚になることは自然界の中であり得ること。そして、人間がその増えた花弁のバラに肥料をあげて栽培し、さらに大きくなって花弁が増える。そうして、大きいもの、良いものの選抜を繰り返してきた。いまわかつていだけでも2500年くらい栽培の歴史がありますが、その長い年月の間に選抜され、近年になって人工的に交配されて現在のバラに至ったわけです。

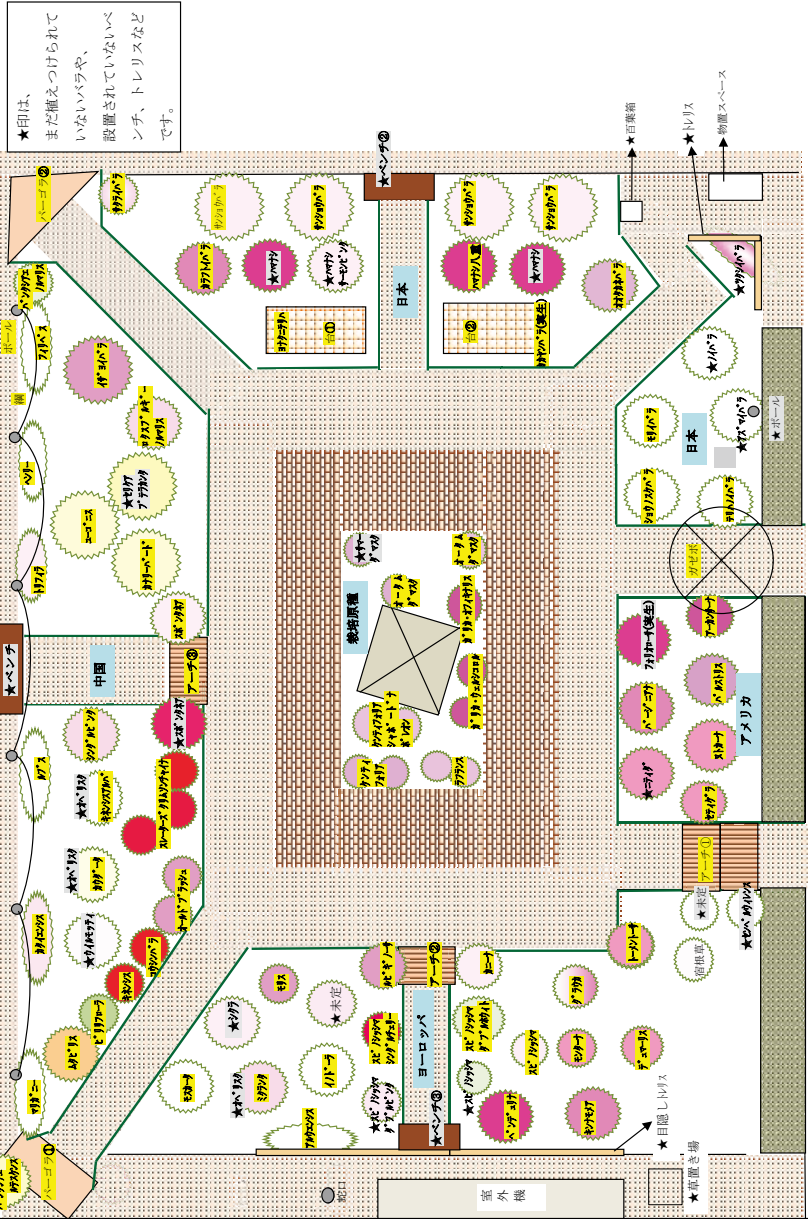
・栽培原種

現在のバラに至る原点の一つ、南フランスに自生していたロサ・ガリカの変種であるロサ・ガリカ・オフィキナリスや、ロサ・ガリカ・ウェルシコロルが咲いています。これらが原点となって、西アジアあたりに自生しているロサ・フェニキアと自然に交配されて、ダマスクローズが誕生したと考えられています。非常に香りがいいです。あとでぜひ、そのダマスクローズの香りを嗅いでいただきたいと思います。

そして、そのダマスクローズにロサ・カニーナが自然に交配されてできたのが、白いバラ、ロサ・アルバ・セミプレナです。ここに植えたのですが、残念ながら枯れてしまいました。ガリカ、ダマスク、アルバ、そしてここに何輪か咲いているケンティフォリア、これが改良の基本となったバラです。

このケンティフォリアローズは16世紀頃オランダの辺りで出現したものといたうことですが、現代バラに繋がる大事な原点のバラの一つです。「ケンティッド」は「百」という意味で、百枚花弁のバラという意味です。マリー・アントワネットが手

Keisen Wild Rose Garden 植栽図 (2016年4月現在)



資料 2 植栽図 (2016年4月現在)

に持っているバラがケンティフォリアローズです。当時画家はこのケンティフォリアローズをよく描いたため「画家のバラ」ともいわれたそうです。

そして18世紀から19世紀にかけて、中国から4種類の四季咲き性のバラがヨーロッパに導入されます。四季咲き性があることはヨーロッパ人にとってはたいへんなことでした。秋にここに来てご覧になると、この中国コーナーのバラだけはきれいに咲いていると思います。春しかバラを見られないヨーロッパの人にとっては、秋にもバラが咲くということは画期的なことでした。多くのバラを収集していたナポレオンの妻ジョゼフィーヌが、「この四季咲き性のバラを交配してみたら、いままでヨーロッパにあったきれいなバラに四季咲き性が出るのではないか」と考えた。それが大成功し、現代のバラにつながっているわけです。

中国のバラを交配させた結果、たくさんのオールドローズの系統ができています。そのたくさんあるオールドローズの中で、紅茶の香を持っているティーローズのひとつのマダム・ブラヴィとハイブリッドパーペチュアルのひとつ、マダム・ヴィクトール・ヴェルディエが交配されてできたのが、ここに二株あるラ・フランスです。1867年に生まれた、モダンローズの第一号です。

・ヨーロッパの野生種

このように自生していた地域毎に植えると、それぞれの特徴がわかりますね。こちらのヨーロッパの野生種は、淡いピンクの花が多いです。いま春なので実はありませんが、このアーチのロサ・カニーナには、艶やかな赤い実がなります。私たちがよくローズヒップティーとしてお茶にする実は、ほとんどがカニーナです。また、日本ではバラの苗を作るときノイバラに接ぎ木をしますが、ヨーロッパではこのカニーナに接ぎ木をすることが多いです。

そしてカニーナの親戚のロサ・エグランテリア、この葉をちょっとこすって匂いを嗅ぐと、青リンゴの匂いがします。親戚と言ってもカニーナは匂いしません。

こちらのロサ・ルブリフォリアという名前のバラもおもしろいです。「ルブリ」は赤、「フォリア」は葉、赤い葉のバラという意味ですね。赤っぽくて、他のバラとは色が違うのがお分かりいただけると思います。花はカリンの花のようで、とてもかわいいです。この辺りに植えると大株にはなりませんが、涼しいところでは本領を発揮して素晴らしい株になります。イギリスなどでは多くの庭園に植えられています。このバラのもう一つの名前はロサ・グラウカ。これは灰色のという意味です。葉の色からつけられた名前なんですね。学名って舌を噛みそうだし、覚えるのがたいへんですが、この意味を考えると頭に入りやすくなります。

ロサ・スピノシッシマという種類を植えてありましたが、枯れてしまいました。ここは粘土質の土地で、雨が降ると水が溜まってなかなかはけません。そうした水はけの悪さが枯れた原因かもしれません。1m以上大きく掘って下の方に水を吸うように砂利などを入れるなどしないと、難しいのかもしれません。

現代バラに黄色を導入した野生種で、ペルシア(イラン)のロサ・フォエティダというバラがあるのですが、それはさらに日本では栽培が難しいので、残念ながら植えていません。

・北アメリカの野生種

皆様にだいぶご寄付を頂いて、いろいろなものを作ることができてきました。このアーチ、後ろのポールとロープ、スクリーンと、一つずつ少しずつ増えています。ベンチも設置できました。

このアーチとガゼボがあるところが、北アメリカの野生種コーナーです。北アメリカの野生種もピンクの花が多いです。ご家庭で野生種を栽培されたい方には、私は北アメリカの野生種をお勧めします。コンパクトにまとまる種類が多いからです。ヨーロッパの野生種を見ていただいてもわかると思いますが、枝がアーチ状に伸びるものがほとんどです。北アメリカの野生種は、ロサ・フォリオローサ、ロサ・ヴァージニアなどコンパクトな樹形で、実が真っ赤になり綺麗です。もうひとつ、北アメリカの野生種の特徴は秋の紅葉がとても綺麗なことです。そういう意味で、日本庭園にも似合います。

・中国の野生種

中国はやはり土地が広い、そしてバラの野生種は北半球に150種類くらいありますが、そのうち90種類が中国にあります。土地が広く90種あるだけあって、やはりバラエティに富んでいます。珍しい黄色い花が、今一輪残っています。ロサ・ユーゴニスとって、中国で布教活動をしていたヒューゴ神父の名前をとったものです。

他には日本のサンショウバラの基本種であるロサ・ロクスブルギー・ノルマリスやイザヨイバラ、四季咲き性の基となったロサ・キネンシスとその変種、バックのポールと綱にはよく伸びる種類を植えてあります。

・日本の野生種

ノイバラやテリハノイバラなど日本の野生種は白い花が多いですが、ピンクの

バラも咲いています。これはサンショウバラといって箱根や富士山の辺りにあって、葉が山椒に似ているから名付けられました。野生バラの中では唯一高木のようになります。その原点が中国の場所にある、ロサ・ロクスブルギー・ノルマリスです。あとハマナシが少し咲いていますね。まるでバラにはみえないショウノスケバラなどもあります。未完成なので、来年をたのしみにしていただけたらと思います。

(野村和子一部加筆修正)

(3)参加者アンケート

アンケートは2回合わせて約60名の参加者のうち、27名より回収した(回収率45%)。質問項目は「年代」「性別」「住まい」「どのようにして知ったか」「感想」の5項目とした。平日ということもあり、年代は50代以上が18名、ほとんどが女性で近隣市からの参加が多かった。11名が公開講座から情報を得ており、次いで恵泉園芸センター、チラシの順であった。

感想からは、「一歩足を踏み入れたらあまりの香りの良さで幸せを感じました。」「実際に咲いている花を指してのお話でわかりやすかった。バラの系統についてもよくわかり楽しいときであった。」など、実物を見ながら、説明を聞いたことが好評であった。また、香りなど五感で感じられたことが強い印象に残ったようである。

「バラは非常に歴史がある花ということを知ることができました。きれいに咲いたり良い香りがするのは、その長い年月のおかげなんだろうと思いました。」「野生種のバラ園は興味深いです。花のはなやかさはないけれどロマンを感じます。」など、バラ文化に対する造詣の深い講師の解説により、野生種を集めたバラ園ならではのバラの歴史を垣間見ることができ、心を動かされたことがうかがえる。

また、以前公開講座受講生として作業に携わった参加者は、バラ園づくりが進んだ様子を見て次のように述べている。「約一年関わってきましたが、以前とは異なりパーゴラやアーチが加えられ、より華やかに見えました。お手伝いに参加しているときは全体が見えていなかったのが、客観的に見ることができてよかったです。」見るだけでなく、バラ園づくりに参加できることは、本バラ園の特徴である。

(4)まとめ

今回はミニガイドツアー後もお茶を飲めるよう、恵泉オーガニックカフェは16:15までオープンしたため、地域の方々にオーガニックのバラ園でゆっくり過ごしていただくことができた。今後も、オーガニックカフェと連携し、地域のコミュニティの一

部として人が集う場としていきたい。

ガイドツアーはバラ園が参加者でいっぱいになるほど盛況で、解説は30分間だったが、参加者の満足度が高かった。野生種を集めたバラ園であることや植え方について具体的に実物を見ながら聞く解説は、今後も地域へオーガニックのバラ栽培を普及していく上で、効果があると思われる。今回は春に行ったが、秋には自生地ごとの開花期の違いや、実の観察ができる。今後は秋にも同講師によるガイドツアーや講演会を企画し、野生種を集めたバラ園ならではの見どころを生かし、学生をはじめ地域の方々が学ぶ機会としたい。

3. 佐倉草ぶえの丘バラ園視察

(1) 視察の目的と行程

恵泉女学園でのバラ園づくりや運営について参考にするため、多くのバラの原種を集めてテーマごとに植栽された佐倉草ぶえの丘バラ園を、バラ園運営委員が以下の日程で視察することとした。

現地では佐倉草ぶえの丘バラ園と資料室を見学、バラ園の植栽の説明や、ボランティアによる運営などについてお話を伺った。スケジュールは以下のとおりである。

2016年9月23日(木)

11:45	京成佐倉駅発 循環バス
12:10～	草ぶえの丘 バラ園資料室見学、バラ園カフェにて昼食
13:30～	バラ園見学
14:30～15:30	学習室にて運営委員会
15:49	草ぶえの丘発 循環バス

(2) 佐倉草ぶえの丘バラ園について

千葉県佐倉市の佐倉草ぶえの丘は、キャンプ場、アスレチック、体育館、宿泊施設、農園、民家などがあり、自然体験ができる佐倉市の公共施設である。NPOバラ文化研究所が運営しているバラ園は、2006年その園内にオープンした。13,000㎡の園内には、1,050品種約2,500株のバラが植栽されている。パンフレットに「草ぶえの丘バラ園は、後世に残さなければならないヘリテージローズ（原種とオールドローズ）の収集・保存を目的とし、世界的にも例の少ないボランティアによって管理・運営されているバラ園です。」とある。原種とオールドローズが「世界の原種」「アジアの原種」「歴史（各時代の品種）」などのテーマごとに植えられており、美しいだけでなく年間を通じて

学ぶことができるよう植栽されている。また、その管理・運営を、ボランティアが担っていることが大きな特徴である。その功績は2014 Great Rosarians of the World XIV Rose Garden Hall of Fameを受賞するなど、国際的にも認められている(注2)。

公式ホームページ(<http://kusabueroses.jp/>)では、ボランティアを常時募集し、年間を通じた作業への参加や個人が得意な分野を活かした活動への参加を呼びかけている(注3)。

現在ボランティアは約40名で、10時から15時に活動。自分で参加する曜日を決め、責任を持って毎週1回作業するというしくみで、単発の参加は受け入れていない。地元佐倉市のみならず、柏市、茂原市、東京都、茨城県からの参加者もいる。

また、草取り、誘引、剪定、施肥などバラの栽培に直接関わる作業だけでなく、それぞれが得意とする分野で活躍しているのも特徴のひとつである。「バラ以外の植栽」を担当する人がおり、バラを引き立てる淡い色合いの宿根草を中心とした草花が植えられている。「芝生」を担当する人、溶接して作る大きな鉄製アーチや木製のパーゴラや看板など「構築物」を作るのが得意な人、トールペイントで美しく仕上げられた案内板や木製ポストも手作りである。そのボランティアは年間延べ3,400人に及んでいる。

運営・管理は、運営委員が週3日9時から17時まで行うがすべて無償のボランティアである。それでもこなさきれない雑務についてはアルバイトを3人(1人週3~4日)雇っている。

併設されている「資料室」には、鈴木省三氏(注4)が収集していた書籍、雑誌、カタログ、研究資料など9,000点が収められ、整理、展示されている。香りや色素、バラの歴史の研究をはじめ、その内容は、宗教、音楽、絵画など広範囲におよぶ。

(3) 視察を終えて

残暑の厳しい時期でバラの最盛期ではなかった上に、雨の中での視察となった。(写真4,5,6)しかし、バラ園運営委員が少人数で野村の解説を聞きながらバラ園を



写真4 見学の様子



写真5 見学の様子

めぐることができ、管理・運営について大変参考になった(注5)。また中国の野生種などこの時期に咲いているものもあり、実や樹形、そして構築物も見応えがあった。宿根草をはじめとするバラ以外の草花の植栽についても見学した。(写真7) 今後設置予定の支柱(写真8)や、植え付けつつある縁取りのタイムが茂っている様子(写真9)を見ることができ、具体的に進めるための検討材料となった。

佐倉草ぶえの丘バラ園は、NPOバラ文化研究所が、ほぼボランティアによって運営管理している。*Keisen Wild Rose Garden*も同窓生や公開講座受講生の協力があってこそ、開墾、植え付け、手入れがここまでできた。今後大きく育つ野生種をどのように管理し、バラ園を維持していくかは、ボランティアの協力無しには考えられない。さまざまな得意分野を生かしてもらい、管理に携わることが、ボランティアにとっても交流し学び、そして憩うことにつながる。今後もそのような場としていきたい。

また、ここでもバラ園に隣接されたカフェで食事をとり、ゆっくり過ごすことができるよさを体験した。本学においてもバラ園に隣接している恵泉オーガニックカフェと連携し、講演会後にTea Timeを設けて、参加者が講師を囲んでお茶とケーキを

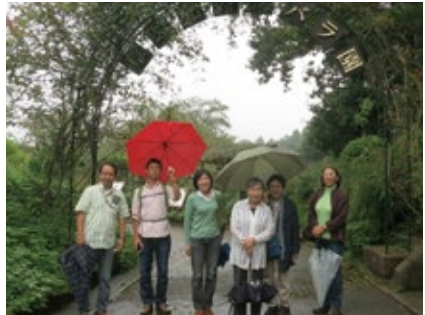


写真6 集合写真



写真7 園内の植栽



写真8 支柱の高さなど参考になる



写真9 ミントの縁取り

楽しみながら、和やかな雰囲気ですらう場を提供することができた。今後も恵泉オーガニックカフェがあることを生かしていきたい。

佐倉草ぶえの丘バラ園と*Keisen Wild Rose Garden*とは、敷地面積、バラの種類数が大きく違うが(注6)、ヘリテージローズの収集・保存を目的に植栽されている点が類似しており、野生種を集めたバラ園の価値を再認識した。大学のキャンパス内にあり、学生・教職員、同窓生、公開講座受講生による手作りで、狭い中に集約されていてテーマがわかりやすい本バラ園が、多摩地域にもたらす意義は大きいだろう。

終わりに:学生の学び、地域への発信の可能性に関するまとめ

本調査では、①*Keisen Wild Rose Garden*～オーガニックの野ばらの庭～ガイドブック作成、②ミニガイドツアーの開催、③佐倉草ぶえの丘バラ園視察を行い、本バラ園の学生と地域市民の交流の場としての活用と、オーガニックのバラ栽培の可能性を地域へ発信することについて検討した。まず、多摩ニュータウンのコミュニティ形成の一助として、その第一歩となったと思われるオープニング記念講演(2015年度開催)について、次に検討内容について、また本事業において学生がどの程度関わることができたかを報告する。

(1) オープニング記念講演について

2015年5月21日、バラ園オープニング記念講演(花と平和のミュージアムバラ園運営委員会主催、恵泉女学園同窓会、恵泉女学園大学園芸文化研究所共催)を開催した。講演「野生種から現代バラへの道のり」を12:20～J202にて、現地説明会を14:00～バラ園にて、Tea Timeを14:30～オーガニックカフェにて行った。講演会には約160名、現地説明会には80名余り、Tea Timeには約60名が参加した。講演内容については、園芸文化第12号「野生種から現代バラへの道のり」(野村, 2016)で報告されている。講演の際に野村から贈られたカナリーバードの苗は、植えつけられ大きく育ち、4月下旬に黄色い花を咲かせた。

学生のアンケートには次のような感想が書かれていた。「貴重なお話を聴くことができ、バラについて沢山のことを知ることができてよかったです。バラの種類、歴史、バラ園は有機栽培で作りたいということなど、専門的なことを学ぶことができてよかったです。」「野生バラから、オールドローズ、モダンローズ、イングリッシュローズ etc. こんなにも沢山の種類がある事におどろき、感動しました。」

恵泉オーガニックカフェのお茶とケーキをいただきながらのTea Timeは、司会(澤登早苗)が野村に話を伺う形で行った。参加した学生も意見を求められ、日頃の活動

での植え穴掘りのたいへんさなど苦労話や、やりがいなどについて述べた。参加者から「バラ園の作業には全く携わっていないので、なされた方のお話しが聞けておもしろかったです。」との感想をいただいた。オーガニックカフェについては「学生さんが自主的にがんばって運営している点がすばらしいと思いました。」という感想をいただいた。

2015年度のオープニング記念講演は、学生が学び、発言し、カフェで活躍する機会となった。2016年度のミニガイドツアーも、学生にとって野村の話を聞く貴重な時であった。日頃の作業参加や、野村の講演会やガイドツアーを通して学んだことを生かして、ガイドブックを作ることができた。今後も学生が学ぶ機会を設け、さらに学んだことを発信していく場を作っていきたい。

(2)地域協働の場としての活用

月1回程度の作業には、主に同窓生、元公開講座受講生と学生・教職員が参加しており、野村の指導で行われる。これが共に働き共に学ぶ交流の場となっていることをふまえて継続するとともに、佐倉草ぶえの丘バラ園のボランティアによる運営をヒントに、得意分野を生かすことができるよう検討する。また、参加者が作業をスムーズに進められるよう、園内に物置きを設置する予定である。

野村による専門的な講演やガイドの開催に加え、将来的には学生によるミニガイドを計画し、地域市民の学びと交流の機会としていきたい。「*Keisen Wild Rose Garden* ～オーガニックの野ばらの庭～ガイドブック」を活用することで、短時間で参加しやすいガイドツアーを学生が行うことが可能と考えられる。

このバラ園の特徴の一つは、学生を中心に運営されているオーガニックカフェが隣接していることである。オーガニックカフェと連携し、地域に開かれた憩いの場、地域の方々の交流の場としていきたい。

南野キャンパスでは、土曜園芸クラブ、恵泉オーガニックカフェ、福島を想うプロジェクト@恵泉、ファーマーズマーケット(2017年度から開催)など、地域の方々が集う多くの機会が設けられており、それらの参加者のなかにはリピーターも増えてきたようである。本バラ園は、南野キャンパスの校舎の入口に位置しており、それらの活動の際にも地域協働の場として活用してもらえるようにしていく。そのために、ガイドブックを常時配布できるようにする他、引き続き寄付を募りベンチの設置などをさらに進めたい。

(3) オーガニックのバラ栽培の可能性の発信

学外においては「エコプロ2016(2016年12月7～9日、於:東京ビッグサイト)」、「多摩エコ・フェスタ2017(2017年2月18～19日、於:多摩市立複合文化施設パルテノン多摩)にて、環境負荷の少ないオーガニックの本バラ園について展示、紹介し、広報に努めた。

学内では、講演会やミニガイドツアーの他、5月のスプリングフェスティバル、および11月の恵泉祭にてパネル展示を行うとともに、学生による教育農場ツアーでの最終見学場所を本バラ園とし、現地へ案内してきた。

今後は、学内外での広報の際に、「学生/観賞者の健康や生物多様性など、身近なところから地球環境に配慮し、農薬や化学肥料を使わずに栽培」していること、その経緯などが書かれている「*Keisen Wild Rose Garden* ～オーガニックの野ばらの庭～ガイドブック」を配布する。

Webサイトについては、これまで同窓会の公式サイトとfacebookページで作業日の案内をするのみであったが、本学公式Webサイトで花と平和のミュージアムのページへ拡充する。講演会やガイドツアー、学内外の展示のお知らせもこのページから発信する。さらに、有機栽培の実際やバラの開花状況をこまめに掲示するなど、内容も充実させたい。

その他、将来的に、環境負荷の少ないバラ園の意義を広く知らせ普及するために多摩市とタイアップした講演会の企画や、野村の音声ガイドづくりなどが考えられる。

(4) バラ園を通しての学生の学び

本事業では、学生が同窓生、公開講座「バラを学ぶ」受講生などの諸先輩方とのバラ園での作業を通し、その楽しさを味わい、学ぶことを目指してきた。学内Webサイト@kで作業日時を提示して募集し、学生の参加を促した結果、2016年度においては、年間延べ51名の有志の学生が参加した。卒業生(園芸短期大学)は延べ9名、公開講座受講生は延べ74名であった(表1)。2012～2016年度を通し、毎年延べ20～50名程度の学生が参加している。参加者に占める学生の割合は、平均しておよそ4人に1人であった(表2)。授業の時間割上参加しにくい回もあり、作業に参加する学生は1回につき1～4名ほどで多くはないが、継続的に参加する者もあり、本バラ園への愛着を持ち楽しんでいく様子が見えてくる。学生がガイドブックを作成する際は、野村からたびたびアドバイスをいただき、知識を得、理解を深めることができた。

表1 2016年度 バラ園づくり 作業参加人数等

回	日付	曜日	時間	参加人数	野村	学生	卒業生	講座受講生	教職員	作業内容
1	4月22日	金	15:00～16:00	13	1		1	9	2	中国エリア植え付け、除草、支柱立て、誘引、レンガ設置準備
2	5月13日	金	13:30～16:30	7		3	1		3	除草、ベンチ組み立て、パゴラ用木材塗装
3	5月16日	木	10:00～16:00	2		1				トレリス設置(土台作り)
4	5月19日	木	13:30～17:30	4		2			2	トレリス設置(横板)、通路チップ敷き、除草
5	6月17日	金	15:00～16:00	11	1		1	7	2	日本エリア植え付け、除草、誘引、虫取り、剪定、花がら摘み
6	7月8日	金	13:30～15:30	4		3			1	プレート設置、除草
7	8月12日	金	9:30～11:30	3					2	レンガ敷き、除草
8	9月1日	木	9:30～11:50	4		3	1		1	レンガ敷き、除草
9	9月5日	月	9:30～11:50	4		2			2	レンガ敷き、百葉箱設置、除草、ガゼボに誘引
10	9月9日	金	9:30～11:40	2		1			1	除草
11	9月12日	月	9:30～12:00	4		3			1	レンガ敷き、除草
12	9月16日	金	9:30～12:00	4		3			1	レンガ敷き
13	9月26日	月	14:10～16:20	2		1			1	除草
14	9月27日	火	14:10～16:10	3					3	除草
15	10月21日	金	15:00～16:00	18	1	2	1	13	1	日本エリア植え付け、誘引、他
16	11月18日	金	15:00～16:30	18	1	1		14	2	オベリスク設置、剪定、誘引
17	12月16日	金	15:00～16:30	23	1	10	1	9	2	アンネのバラ植え付け、剪定、誘引
18	1月11日	水	13:30～14:30	4		3			1	落ち葉片付け、レンガ敷き
19	1月20日	金	15:00～16:30	14	1		1	10	2	ベンチ設置、剪定、誘引
20	2月9日	木	10:00～12:00	2		2				レンガ敷き
21	2月17日	金	15:00～16:00	20	1	4	1	12	2	ベンチ設置、剪定、誘引、他
22	2月23日	木	14:40～	8	1	1	2		4	中国エリア植え付け、施肥、剪定
23	3月13日	月	10:00～12:30	4		3			1	レンガ敷き、誘引
24	3月31日	金	10:00～12:30	2		2				レンガ敷き
	合計			180	8	51	9	74	38	

表2 2012～2016年度 バラ園づくり 作業参加延べ人数

年度	作業回数	参加人数		野村	学生	卒業生	講座受講生	教職員	参加者に占める学生の割合(%)	
		野村	学生						その他	
2012	14	69	3	17	10	9	30	0	25	
2013	21	162	10	25	25	49	45	8	15	
2014	21	180	9	28	16	56	61	8	16	
2015	26	191	9	56	16	49	61	0	29	
2016	24	180	8	51	9	74	38	0	28	
合計	106	782	39	177	78	237	235	16	23	

謝辞

本事業は、学生、教職員、同窓生だけでなく、公開講座「バラを学ぶ」の受講生が作業に加わってくださった。また、同窓生をはじめ、多くの方々に多大な寄付をいただき、アーチやベンチなどの構築物を設置することができた。支えてくださったたくさんの方々に感謝申し上げます。特に本バラ園の設計者であり片道3時間以上かけて通い続けてくださった野村和子氏に感謝の意を表したい。

(注)

1. 中央のれんがとピラミッド: 現在地にあった都立南野高校の中庭に造成されていた構造物。
2. Rose Garden Hall of Fame: アメリカロサンゼルス郊外のサンマリノにある財団法人ハンチントン図書館、美術館及び植物園(Huntington Library, Art Collection and Botanical Garden)のGreat Rosarians of the World programが世界のバラ園の中から選定する「殿堂入りバラ園」の称号。2014年に「草ぶえの丘バラ園」がRose Garden Hall of Fameに選定され殿堂入りした理由は、同園がバラの歴史の重要性を日本のバラ界に啓発することに貢献しているとともに、NPOバラ文化研究所が20年近い年月をかけて貴重品種の収集と保存に努力したことによるものである。
3. 佐倉草ぶえの丘バラ園公式ホームページ: <http://kusabueroses.jp/>(最終アクセス2019年2月10日)
4. 鈴木省三: バラ育種家。1938年とどろきばらえんを設立。1958年京成バラ園芸研究所初代所長。

AARS賞(All-America Rose Selections)他、5つもの国際的な金賞を獲得。世界的にバラの文化を代表する人物として「ミスター・ローズ」「日本バラ界の父」と称された。生涯「バラを追求するときはその文化面も大切」という姿勢で育種とバラ園の運営、バラ文化の啓蒙にあたる。鈴木省三の残した9,000点にのぼる資料は「草ぶえの丘バラ園資料室」で見ることができる。

5. 草ぶえの丘バラ園(2006年開園)は、千葉県佐倉市から委託されたNPOバラ文化研究所が運営管理している。その前身は同研究所が1996年佐倉市に設立したローズガーデンアルバ(~2004年)である。バラ文化研究所は鈴木省三の肝いりで設立された施設で、ローズガーデンアルバの移設にあたっては、アルバにあったバラをすべて佐倉市に寄贈、移植した。野村和子は同研究所の設定期から関

わり現在は理事を勤める。野村は草ふえの丘バラ園の立ち上げから現在に至るまで運営・管理の最前線で携わっている。

6. 草ふえの丘バラ園の規模は面積13,000㎡、バラの品種は1,050種、約2,500株(10頁参照)であるのに対し、本学バラ園は261㎡、現在65品種、84株が植えられている。